

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
106-246	高等学校	国語	言語文化	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
104・数研	言 文 ・ 104-902	改訂版 高等学校 言語文化		

## 1. 編修の基本方針

- 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識・技能を培い、確かな国語力を育成する。
- 我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めるとともに、文化の担い手としての自覚を養う。
- 自分の体験や思いを他者に伝えるための、確かな文章の創作力を育成する。
- 作品や文章に表現されたものを読み取る、確かな読解力を育成する。

## 2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
<b>古文の世界</b>		
古文の世界を楽しむ	古くから語り継がれてきた説話文学、我が国最古の作り物語である『竹取物語』の読解を通して、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する精神を養えるようにした。(第5号)	p. 36～p. 53
現代にも生きる教え	古人の豊かな情操に触れることで、真理を求める態度と豊かな情操を培うことができるようにした。また、隠棲者の文学を扱うことにより、自己と社会との関わり方について考察を深められるようにした。(第1号・第3号)	p. 54～p. 65
和歌による心の交流	和歌を通して表現されている心情の読解を通して、豊かな情操をはぐくめるようにした。(第1号)	p. 66～p. 81
平安宮廷文学の世界	古人の豊かな情操に触れることで、真理を求める態度と豊かな情操を培うことができるようにした。また、我が国の自然風土を観察した中古の随筆に触れることで、自然を大切に作る心をはぐくむとともに、我が国と郷土を愛する心を養えるようにした。(第1号・第4号・第5号)	p. 82～p. 91
和歌を味わう	和歌に表現された自然描写を通じて、古来日本で尊ばれてきた自然の美に触れられるようにした。(第4号・第5号)	p. 92～p. 103
仮名日記文学の原点	我が国の仮名日記文学の先駆である『土佐日記』の読解を通して、我が国の伝統と文化を尊重する態度を養えるようにした。(第5号)	p. 104～p. 109

戦乱下の人間像	中世の戦乱期における人間像を描いた軍記物語の読解を通して、生命を尊ぶ心と伝統と文化を尊重する態度をはぐくめるようにした。(第4号・第5号)	p. 110～p. 121
先人を思う旅	自然の景観や人間の営みを描いた近世の俳諧紀行文の読解を通して、自然や伝統・文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養えるようにした。(第4号・第5号)	p. 122～p. 127
異なる考えの比較	時代ごとに作られた「注釈書」に触れることを通して、先人がどのようにして古典文学を尊重し、それを後世に受け継いできたかを理解できるようにした。(第5号)	p. 128～p. 132
<b>漢文の世界</b>		
日本語の中に生きる漢文	漢文を読むための基礎的知識の習得を通して、漢文が我が国の言語文化に与えた影響を知ることができるようにした。(第5号)	p. 136～p. 145
故事と成語	故事成語として伝わる漢文の逸話を取り上げることにより、中国の故事と我が国の伝統的な言語文化との関連について理解を深められるようにした。(第5号)	p. 146～p. 157
読み継がれる歴史	古代の中国において個人の価値を発揮した人々の伝記を取り上げることにより、個人の能力や創造性を尊重する価値観の普遍性について考察できるようにした。(第2号)	p. 158～p. 167
漢詩のことば	日本と中国における文化の類似点・相違点を確かめながら漢詩を読解することで、日本文化と中国文化の関係性について理解を深められるようにした。(第5号)	p. 168～p. 179
論語とその注釈	古代中国の思想に触れることで、幅広い知識と豊かな情操を養うとともに、自己と社会との関わり方についての考察を深められるようにした。(第1号・第3号)	p. 180～p. 189
論説の文章	我が国でも古くから名文の手本として読み継がれてきた漢文作品を取り上げることにより、伝統的な言語文化を尊重する態度を養えるようにした。(第5号)	p. 190～p. 194
<b>古典から現代へ</b>		
受け継がれる古文	主人公の心情や人物像を深く読み取ることで、真理を求める態度と豊かな情操・道徳心をはぐくめるよう配慮するとともに、当該作品の典拠となった古文作品との比較読解を通して、伝統的な言語文化を尊重する態度を養えるようにした。(第1号・第5号)	p. 198～p. 219

「ことば」を 吟味する	辞書編集に勤しむ人々を描いた現代小説の読解を通して、我が国の「ことば」をあらためて吟味する機会を設けることで、我が国の伝統と文化を尊重する心を培うとともに、真理を求める態度・勤労を重んずる態度を養えるようにした。（第1号・第2号・第5号）	p. 220～p. 241
記録する文学	太平洋戦争における沖縄戦を描いた小説の読解を通して、戦争の悲惨さを理解し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるようにした。（第5号）	p. 242～p. 257
詩歌を味わう	近代以降のさまざまな詩歌に触れることで、伝統的な我が国の言語文化の理解が深まるよう配慮するとともに、生命や自然、自他の敬愛などを詠った詩歌の読解を通して、生命・自然を尊ぶ心、公共の精神をはぐくむ心が養えるようにした。また、短歌・俳句の創作を通じて、創造性を培うことができるようにした。（第2号・第3号・第4号・第5号）	p. 258～p. 273
「ことば」を探す	自身の感覚や心情を的確に言い表すための言葉を探し続ける主人公を描いた現代小説の読解を通して、真理を求める態度を養い、豊かな情操を培うことができるようにした。（第1号）	p. 274～p. 287
受け継がれる漢文	主人公の心情や人物像を深く読み取ることで、真理を求める態度と豊かな情操・道徳心をはぐくめるよう配慮するとともに、当該作品の典拠となった漢文作品との比較読解を通して、伝統的な言語文化を尊重する態度を養えるようにした。（第1号・第5号）	p. 288～p. 307
詩歌を編む	古典文学から現代文学にいたるさまざまな詩歌に触れることで、伝統的な我が国の言語文化の理解が深まるよう配慮するとともに、生命や自然、自他の敬愛などを詠った詩歌の読解を通して、生命・自然を尊ぶ心、公共の精神をはぐくむ心が養えるようにした。（第3号・第4号・第5号）	p. 308～p. 312

### 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- 学校教育法第51条2号「一般的な教養を高め、専門的な知識、技術及び技能を習得させること」を踏まえ、知っておきたい国語的教養に関する「解説」（コラム）を随所に掲載した。
- 学校教育法第51条第3号「社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと」を踏まえ、各教材末の設問では、我が国の言語文化を多角的な視点から考察できる設問を多数用意した。

# 編修趣意書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
106-246	高等学校	国語	言語文化	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
104・数研	言文・104-902	改訂版 高等学校 言語文化		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

### (1) 全体

- ① 我が国の言語文化の変遷を解説した「言語文化と古文」「言語文化と漢文」「言語文化と近現代文」コーナーを各編の冒頭に収録した。
- ② 教材の読解から発展させて、我が国の言語文化についての知識や理解を深めることができる「ズームアップ」コーナーを設けた。

**関係年表**

前1000頃	殷の成立
前1100頃	殷が滅ぶ / 周の成立
前770	周が洛邑に遷都
前403	晋が韓・魏・趙に分裂
前256	周が滅ぶ
前221	秦が天下統一
前206	秦が滅ぶ

**周の封建制度**

**ズームアップ**

### 春秋・戦国時代

① 周王朝の成立と衰退

中国で実在が確認されている最初の王朝は殷である。殷は前十一世紀、周の武王に滅ぼされた。周は諸侯に各地を統治させる封建制度による政治を行ったが、前七七〇年に周辺民族に追われ、都を西の鎬京から東の洛邑に移した。以後、周王朝の権威は衰え、諸侯が各地で勢力を振るうようになった。周が遷都してから、諸侯国の晋が韓・魏・趙に分裂した前四〇三年までを春秋時代、それから前二二二年の秦による中国統一までを戦国時代という。

**ズームアップ**

① 「ことば」を説明する

君たちは普段、どんな国語辞典を使っているだろうか。国語辞典には大型・中型・小型があり、それぞれ収録語数は、大型が五十万語、中型が二十万語、小型が八万語ぐらい。小説「舟を編む」の中で馬場たちが作るろうとして「大渡海」の見出し語は二十万語。中型辞典としては多いほうに分類される。「大渡海」は、「辞書は、言葉の海を渡る舟」「海を渡るにふさわしい舟を編む」という編集方針のもと、十五年の歳月を経て完成することになるのだが、実際の国語辞典も同じようにそれぞれ

**ズームアップ**

### 辞書には個性がある

- ③ 本編教材との比較読解ができる文章を掲載した「探究の扉」コーナーを設けることで、本編教材の理解がより深められるようにした。

**探究の扉** 比べ読み

### 白氏文集

香炉峰下、新卜山居、草堂初成、偶題、東壁、白居易

① 香炉峰下、新卜山居、草堂初成、偶題、東壁、白居易

② 香炉峰下、新卜山居、草堂初成、偶題、東壁、白居易

③ 香炉峰下、新卜山居、草堂初成、偶題、東壁、白居易

④ 香炉峰下、新卜山居、草堂初成、偶題、東壁、白居易

⑤ 香炉峰下、新卜山居、草堂初成、偶題、東壁、白居易

⑥ 香炉峰下、新卜山居、草堂初成、偶題、東壁、白居易

⑦ 香炉峰下、新卜山居、草堂初成、偶題、東壁、白居易

⑧ 香炉峰下、新卜山居、草堂初成、偶題、東壁、白居易

⑨ 香炉峰下、新卜山居、草堂初成、偶題、東壁、白居易

⑩ 香炉峰下、新卜山居、草堂初成、偶題、東壁、白居易

⑪ 香炉峰下、新卜山居、草堂初成、偶題、東壁、白居易

⑫ 香炉峰下、新卜山居、草堂初成、偶題、東壁、白居易

**探究の扉** 比べ読み

### 今昔物語集

羅城門の上層に登りて死人を見る盗人の語

今昔昔、摂津の国のわたりより、盗みせむがために京に上りける男の、日のいふ今昔昔は昔のことだが、摂津の国のあたりから、

まだ明かりければ、羅城門の下に立ち隠れて立てりけるに、朱雀の方に人しげくありきければ、人の静まるまでと思ひて、門の下に待ち立てりけるに、山城の方より人どものあまた来たる音のしければ、「それに見えじ。」と思ひて、門の上層にやはらかがり登りたりけるに、見れば火ほのかにともしたり。

- ④ 各教材の見出し付近に掲載した二次元コードを通じて、さまざまな角度から本編教材の理解を深めることができる「学習用コンテンツ」を多数用意した。

(2) 古文の世界

① 体系的な文法学習のために「古文チェックポイント」コーナーを設けて文法解説を施し、同コーナー内には、現代語との関連性が理解できる「知っておきたい日本語の歴史」(コラム)を適宜掲載した。

補助動詞	動詞
<p>活用語の後に「給ふ」などを付ける。</p> <p>④ (中言は) 笑はせ給ふ。(公・三) お笑いに給ふ。</p>	<p>尊敬語</p> <p>話し手(書き手)が、話題中の動作をする人に敬意を表す。</p> <p>「おはす」「あり」などを使う。</p> <p>② (翁の発言)「竹の中にかくや姫が」 誰かかくやに對する敬意 おはするにて知りぬ。「靈・五」 ういひひら</p>
<p>活用語の後に「参る」などを付ける。</p> <p>④ (巴の発言)「いくさして」 巴から條件に対する敬意 見せてまつらん。(二四・二) 見せし上りよう</p>	<p>謙讓語</p> <p>話し手(書き手)が、話題中の動作を受け手に敬意を表す。</p> <p>「参る」「行く」などを使う。</p> <p>② (中言のもと)「中納言参り給ひて」 参上なまつて</p>
<p>活用語の後に「侍り・候ふ」などを付ける。</p> <p>④ 「兼平はこの敵防ぎ候は」 兼平から兼平に対する敬意 仲に申しければ、(二)</p>	<p>丁寧語</p> <p>話し手(書き手)が、話題中の動作をする人に敬意を表す。</p> <p>「侍り・候ふ」「あり」などを使う。</p> <p>② (兼平から兼平への発言)「兼平から兼平に対する敬意」 候はず。(二三・七) いひまへん</p>

**古文チェックポイント**

**敬語**

1 敬語とは

話し手(書き手)が話題中の人物や聞き手(読み手)に対して敬う気持ちを表す言葉で、尊敬語・謙讓語・丁寧語の三種に分類される。

話題

動作を受け手  
動作をする人

敬意

話題

動作を受け手  
動作をする人

敬意

古典文法要覧(一) 三〇頁

**敬語の敬意は減っていく**

「貴様」という言葉には、どういふイメージがあるだろうか。乱暴な言葉だと感じる人が多いのではないかと。しかし、この語は「貴十様」であり、もともと「あなた様」という意味だった。時代の経過と使用層の拡大に伴って、いつしか相手のしる語になってしまったのである。

このように、敬語の敬意は徐々に減少していく傾向がある。「給ふ」も、奈良時代までは単独で神仏や天皇の動作に用いられる最高級の敬語だったが、平安時代には普通の敬意を表すようになった。そのため、尊敬の助動詞「す」や「ます」と組み合わせた最高敬語(二重尊敬)が生まれたのである。

**知っておきたい日本語の歴史**

四段活用(の五段化)：時代とともに、推量などの助動詞「む(ゆゑ)」が「う」に変化し、それの上接する四段動詞の未然形を「う」の音・仮名遣いで表すようになった。

現代語の五段活用動詞

例語	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
聞く	き	か	き	く	く	け	け
いき	い	い	い	い	い	い	い

二段活用の一段化：活用形の中で最も使用頻度が高いのは連用形である。二段活用動詞では連用形の「e」「i」の音が他の活用形に影響し、「u」の音が消えて一段活用化した。

現代語の上二段活用動詞

例語	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
い	い	い	い	い	い	い	い
ち	ち	ち	ち	ち	ち	ち	ち
ち	ち	ち	ち	ち	ち	ち	ち
ち	ち	ち	ち	ち	ち	ち	ち

② 作品の背景知識を深めるとともに、読書活動にもつなげることができる「作品解説」コーナーを設けた。

**作品解説**

**伊勢物語**

「みやび」な「男」の一代記

伊勢物語には、さまざまな恋の形が描かれている。恋慕の情を表現する主人公の「男」は、在原業平のイメージと重なり合っている。理想的な平安の男性像を形作った。

◆成立 「古今和歌集」(一)五頁に収録された在原業平(九)六頁の和歌と深くつながりがあり、物語の核となる部分は、延喜五(九二)年以前には成立していたとされる。その後、十世紀を通じて増補され、十一世紀初めまでには、現在のような形になったと考えられている。

◆作者 未詳。複数の作者が関わっているとも言われる。

◆内容 約百二十五段(伝本によって異なる)からなる歌物語。各章段は、和歌を中心に、その歌が詠まれた事情を語る短編物語となっており、「昔、男で始まる」ことが多い。この「男」は、読者に在原業平をイメージさせるが、実際の業平とは異なる虚構の部分も多い。

現存する本は、「男」の初冠(元服)から死までの一代記的

**作品解説**

**土佐日記**

仮名日記文学のさきがけ

日記をつけている人は、「それは文学かと聞かれても、なかなか「はい」と言えないだろう。文学としての日記とは何か。その答えの力を握るのが「土佐日記」である。

◆成立 紀貫之が土佐から帰京した承平五(九三五)年以降、間もない時期に成立したと考えられている。

◆作者 紀貫之(九〇五～九七〇)。平安時代前期を代表する歌人で、「古今和歌集」の中心的な撰者として、その「仮名序」を執筆した。三十六歌仙の一人。延長八(九三〇)年に土佐守に任命され、現地に赴任した。

◆内容 承平四(九三四)年十二月二十一日に土佐を出発し、翌年二月十六日深夜に京都の自宅に到着するまでの、五十五日間の旅を記した日記文学。任期を終えて帰京する国司(紀貫之)の女性性、土佐で幼い女児を亡くしたとされており、望郷の思いとともに、子を亡くした悲しみも大きな主題となっている。

(3) 漢文の世界

① 体系的な句法学習のために「漢文チェックポイント」コーナーを設けて句法解説を施した。

(4) 古典から現代へ

- ① 教材となる文章は、近代以降の文章から、我が国の言語文化を理解し、親しむことに適したものを精選して収録した。
- ② 作家の略歴を知ることができるとともに、読書活動にもつなげることができる「作者解説」コーナーを設けた。
- ③ 「詩歌を編む」の単元では、古典から現代にいたるさまざまな詩歌を掲載し、我が国における詩歌の変遷を踏まえて詩歌のアンソロジーを編む課題を設定した。

2. 対照表

\* 配当時数における丸付き数字は「A 書くこと」の時数を示す。

図書の構成・内容	単元	教材	学習指導要領の内容						該当箇所 [頁]	配当時数	
			知識及び技能		思考力, 判断力, 表現力等						
			(1)	(2)	A 書くこと		B 読むこと				
		(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)				
		言語文化と古文		ア・エ・オ						32	1
		【古文チェックポイント1】古文の特徴		ウ・エ						34	1
古文の世界を楽しむ		宇治拾遺物語		ウ			ア・イ・エ	イ・ウ		36	3
		【古文チェックポイント2】古語・省略・指示語・品詞・活用		ウ						38	
		【古文チェックポイント3】動詞・形容詞・形容動詞		ウ・エ						42	
		【作品解説】宇治拾遺物語		イ・カ						44	
		竹取物語		イ・ウ			ア・エ・オ			45	
		【探究の扉】『竹取物語』と「小公子説話」	オ	イ			エ	ア		48	
		【古文チェックポイント4】係り結び・接続助詞「ば」		ウ						51	
		【作品解説】竹取物語		イ						52	
現代にも生きる教え		【ズームアップ】古語と現代語		ウ・エ						53	
		徒然草		ウ・オ			ア・イ・ウ・エ・オ	イ		54	3
		【探究の扉】新古今和歌集	ア	ウ			エ・オ	ウ		61	
		【作品解説】徒然草		イ						62	
		【ズームアップ】世の中を見つめる目		イ						63	
和歌による心の交流		【古文チェックポイント5】助動詞		ウ・エ						64	
		伊勢物語	オ	ウ・カ			ア・イ・ウ・エ・オ	イ		66	3
		【探究の扉】今昔物語集		ウ			ウ・エ	イ・ウ		68	
		【古文チェックポイント6】助詞		ウ・エ						77	
		【言語活動の実践】古文の物語をリライトする	ア	カ	ア・イ					78	③
		【作品解説】伊勢物語		イ・カ						80	
		【ズームアップ】『伊勢物語』の影響		イ						81	
平安宮廷文学の世界		枕草子[春はあけぼの・雪のいと高う降りたるを]	エ・オ	ア・ウ			ア・イ・ウ・エ・オ	イ		82	3
		枕草子[ありがたきもの]		ウ	ア・イ	ア				84	①
		【探究の扉】白氏文集		ア・ウ			イ・エ	イ・ウ		87	
		【作品解説】枕草子		イ						88	
		【ズームアップ】女房と宮廷生活		イ・カ						89	
		【古文チェックポイント7】敬語		ウ・エ						90	
和歌を味わう		万葉集	オ	ウ			ア・イ			92	2
		古今和歌集	オ	ウ			イ・ウ			95	
		新古今和歌集	オ	ウ	イ	ア				98	①
		【ズームアップ】和歌の世界		イ						101	
		【古文チェックポイント8】和歌の修辞	オ	ウ						102	
仮名日記文学の原点		土佐日記	エ・オ	ウ			ア・イ・ウ・エ	イ・ウ		104	2
		【作品解説】土佐日記		イ						108	
		【ズームアップ】漢文日記と仮名日記文学		イ						109	
戦乱下の人間像		平家物語		ウ			ア・イ・ウ	イ		110	3
		【作品解説】平家物語		イ						119	
		【ズームアップ】和漢混交文		オ						120	
		【古文チェックポイント9】用言の音便・助動詞の音便		ウ						121	
先人を思う旅		おくのほそ道		ウ			ア・エ・オ	イ・ウ		122	2
		【作品解説】おくのほそ道		イ						126	
		【ズームアップ】旅と文学		イ						127	
異なる考えの比較		古典と注釈	オ	ウ			ア・イ・エ・オ	ウ・オ		128	2
		【探究の扉】英語で読む百人一首		ア			エ	エ		131	
		【ズームアップ】つながる古典		ア・カ						132	
日本語の中に生きる漢文		言語文化と漢文		ア・エ						134	1
		入門一		ウ						136	2
		【漢文チェックポイント1】訓読の基礎		ウ						138	
		入門二		ウ						140	
		【漢文チェックポイント2】再読文字・助字・置き字		ウ						142	
		【ズームアップ】漢文由来の名付け		ア						144	
故事と成語		漁夫之利		イ			イ・エ			146	3
		矛盾		イ			イ			148	
		狐借虎威		イ			イ・エ			150	
		朝三暮四		イ			イ			152	
		【言語活動の実践】故事成語の用例を探そう		ア						154	
		【漢文チェックポイント3】否定・疑問・反語・詠嘆の句法		ウ						156	

読み継がれる 歴史	管鮑之交		イ			ア・イ・エ		158	3	
	先従隗始		イ			イ・エ		160		
	鷄口牛後		イ			ア・エ		162		
	【漢文チェックポイント4】使役・受身の句法		ウ					165		
	【ズームアップ】春秋・戦国時代		イ					166		
漢詩のことば	漢詩					ア・ウ・エ・オ		168	3	
	【探究の扉】紅のうつろい		ア・イ・エ			エ		174		
	【漢文チェックポイント5】漢詩の形式		ウ					178		
論語とその注釈	論語		イ			イ・エ・オ		180	3	
	【探究の扉】論語の注釈		イ			エ	ウ	186		
	【漢文チェックポイント6】仮定・比較・選択・限定・抑揚・願望の句法		ウ					188		
論説の文章	雑説					ア・イ・エ		190	3	
	【ズームアップ】科挙		イ・カ					192		
	言語文化と近現代文		エ・オ					196	1	
受け継がれる 古文	羅生門	イ・ウ・エ				ア・イ・ウ・エ・オ	イ	198	3	
	【作者解説】芥川龍之介		カ					212		
	【探究の扉】今昔物語集	ア				エ	ウ	214		
	【ズームアップ】芥川龍之介と古典		イ					218		
「ことば」を 吟味する	舟を編む	イ・ウ・エ				イ・エ・オ		220	3	
	【作者解説】三浦しをん		カ					233		
	【ズームアップ】辞書には個性がある	ウ						234		
	【探究の扉】制服の神さま	ア				エ・オ		236		
	【言語活動の実践】辞書の語釈を書いてみよう	ア・オ	カ					240		
記録する文学	沖縄の手記から	イ・ウ・エ				ア・イ・エ	ウ	242	3	
	【作者解説】田宮虎彦		カ					255		
	【ズームアップ】「戦い」をことばで描く文学		カ					256		
詩歌を味わう	サーカス	ウ・エ				イ・ウ・オ	イ	258	2	
	I was born	ウ・エ				ア・イ・オ	イ	260		
	【作者解説】中原中也・吉野弘		カ					263		
	短歌	ウ		ア・イ	ア			264		①
	俳句	ウ		ア・イ	ア			268		①
	【ズームアップ】詩歌の流れ		オ					272		
「ことば」を探す	初恋の	イ・ウ・エ				ア・イ	イ	274	3	
	【作者解説】川上未映子		カ					286		
	【ズームアップ】語れないものを語る	ア・ウ						287		
受け継がれる 漢文	山月記	イ・ウ・エ				ア・イ・エ	イ	288	3	
	【作者解説】中島敦		カ					302		
	【探究の扉】人虎伝		ア			エ	ウ	304		
	【ズームアップ】〈虎〉への変身は永遠の謎		イ					307		
詩歌を編む	春の思い	オ	ウ			イ		308	2	
	恋の諸相	オ	ウ			イ		310		
	【言語活動の実践】詩歌のアンソロジーを編む	オ	ウ			イ	イ	312		
配当時数合計		A 書くこと [丸付き数字は「書くこと」の配当時数を示す]						7		
		B 読むこと		古典				43		
				近代以降の文章				20		
		合計						70		